

2013年版 茨城の結核統計年報のポイント

2014年11月

◇ 新登録結核患者数382人、罹患率（人口10万対）13.0は概ね減少傾向にあるが、依然として目標（罹患率11以下）にはおよばない。

（2013年報P1参照）

◇ 高齢者の罹患率が高く、新登録結核患者のうち、60歳以上の占める割合が67.8%（2012年66.8%）と増加している。また、60歳代の罹患率（人口10万対）が15.1で、70歳以上は37.0と年齢階層別罹患率が高い。

（P2等参照）

◇ 外国人の結核患者が多く、新登録患者中に占める外国国籍の患者の割合が全国よりも高い。7.9%（全国5.2%）、2012年8.0%（全国5.0%）

（P56・57等参照）

◇ 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数は昨年比べて減少した。119人
2012年207人

（P56・57等参照）

◇ 「発病から初診までの期間が2か月以上経過している割合」は昨年よりもかなり改善された。12.8%（全国平均16.8%）、2012年21.5%（全国平均17.1%）

（P30等参照）

◇ 年末総登録中病状不明割合は、全国よりも高く、昨年よりもかなり増加した。28.1%（全国平均20.7%）、2012年8.5%（全国平均23.1%）

（P30等参照）

◇ 結核の治療状況に関しては、「PZAを含む4剤の処方」の割合が昨年からさらに上昇して全国を上回っており、適正医療が浸透している。89.6%（全国83.0%）、2012年85.8%（全国81.7%）

（P56・57等参照）



茨城県感染症情報センター
（茨城県衛生研究所企画情報部）
TEL 029-241-6652